

「八ヶ岳の森連絡会議」設立10周年を記念して

～その始まりから現在、そして未来へ～



2013. 9月

八ヶ岳の森連絡会議

まえがき

山梨県は、人と森林との関わりを増やす場所、自然への回帰を目指す場所として、県内15ヶ所に『森林文化の森』の整備を計画しています。

「八ヶ岳の森」もその1つとして、美し森から観音平までの遊歩道の利用が可能となっています。

しかし、そのルートは八ヶ岳の森の豊かさを特に象徴するところにあることから、利用にあたってはその保護が前提となっています。

そのような中で、「八ヶ岳の森」連絡会議は、八ヶ岳の森の豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、その自然と、人と自然との関わり、とを育むことを目的に、地域住民と行政がパートナーシップ精神で組織されました。

2003年度に発足以来、八ヶ岳の森を知る活動、森を体験する活動、森を語る活動、森を保全する活動など、八ヶ岳の森の自然を豊かな状態で次の世代に引き継ぐため、人づくり、その仕組みづくりを活動の要としてきました。

その活動は、小さくしかも亀の歩みのように遅い活動ではありますが、着実に未来に向かって進んでいると思っています。

発足年の第1回シンポジウムでは「八ヶ岳の森を私たちの共通の財産として後世に伝えていく」ことを宣言しました。

この宣言に沿って、活動を展開しているところでありますが、10年を向かえて、今までの活動を振り返ると共に未来を語る資料として、この冊子をまとめることとしました。言い換えると「八ヶ岳の森からのメッセージ」でもあります。

パラパラと読みながら、知人、家族、そして未来の方たちと「八ヶ岳の森の未来」を、「地域の未来」を、「この国の未来」を語って頂けるとありがたいです。

2013年8月 天の河原にて

八ヶ岳の森連絡会議会長 伏見 勝

— 目 次 —

1	私たちが活動する八ヶ岳の森とは	P 3
2	八ヶ岳の森連絡会議の必要性	P 4
3	八ヶ岳の森の再生活動の課題	P 8
4	2003年度の活動	P 10
5	2004年度の活動	P 14
6	2005年度の活動	P 17
7	2006年度の活動	P 30
8	2007年度の活動	P 45
9	2008年度の活動	P 48
10	2009年度の活動	P 54
11	2010年度の活動	P 62
12	2011年度の活動	P 68
13	2012年度の活動	P 79
14	オキナグサの植生調査	P 95
15	八ヶ岳緑の回廊	P 99

1 私たちが活動する八ヶ岳の森とは

八ヶ岳は、南北約21km、東西約15kmの広さになります。そして、夏沢峠を境にして、南八ヶ岳と北八ヶ岳に分けられています。

その地質学的歴史については専門書にお願いするとして、約140万年前頃に北八ヶ岳の東側から火山活動が始まったようです。いったん収まってから南に移ってきて、約50万年前頃から南八ヶ岳南側の活動が始まり、今の八ヶ岳が作られてきました。

約15万年前に南の活動は終り、再び北八ヶ岳の西側、蓼科山や横岳などの、最初と違う部分で火山活動が始まっています。

そして、20万年前に、南八ヶ岳の成層火山で、世界でも最大規模の山体崩壊が起こり、崩壊した土砂が土石流になって甲府盆地に流れて行きました。七里ヶ岩はこの時の堆積物です。

その後、この山体崩壊の時にできた地質の上に、火山活動を始めた権現岳から溶岩や土石流が流れてきて、今の南麓の広い山麓が作られました。権現岳の後に三ツ頭、ギボシなどが形成されています。

現在の植生は、長い時間の中で、その上に遷移をくり返し作られています。また、動物たちは、その植生環境のもとで生息できるものだけが、命のリレーをくり返しているのです。

私たちが言葉としている「八ヶ岳の森」とは、八ヶ岳の山梨県側地域を指し、山梨県によって指定された「八ヶ岳森林文化の森」の範囲を活動の中心としています。



八ヶ岳横断歩道「美し森～観音平」

2 八ヶ岳の森連絡会議の必要性

「連絡会議」は、フォーラムです。フォーラムとは八ヶ岳の自然について、自由に討論する場であり目標をもって活動するという意味を持っています。

八ヶ岳のフィールドで自然体験のプログラムを開催している団体は他にもたくさんあります。しかし、必ずしも目標が一致しているわけではありませんが、八ヶ岳の自然を守る活動につながる組織や仕組みが必要となっています。

単なる自然体験プログラムの開催が目標であるならば現状維持でいいのですが、八ヶ岳の豊かな自然を利用して自然体験をしていくのであれば、その前提として豊かな自然が守られていることが必要です。自然を利用しながら壊してしまうのであれば本末転倒ではないでしょうか。

一口に八ヶ岳の森といっても、県有林と民有林があります。さらに民有林については、個人所有林と財産区などの共有林があり、複雑な土地所有関係になっています。

そういった状況を考えると、県有林については県の管理目標がそこになくてもなりませんし、民有林についても森の公益的機能を考えれば、自治体の土地利用計画目標があつてしかるべきと考えます。行政目標と市民の目標が一致するなかで、パートナーシップが生まれ、お互いが力を合わせて目標に向かっていけるのではないのでしょうか。

「自然公園法」の一部改正法においては、「非営利組織」法人等の民間団体が国立・国定公園の公園管理団体として風景地の管理や利用者への情報提供等を行い得る旨規定されるとともに、土地所有者等と協定を締結して長期に亘って自然風景地の管理ができることを担保する風景地保護協定制度が創設されており、行政に任せるだけでなく民間団体の果たす役割は、今後ともますます大きくなると考えられます。

現在、「八ヶ岳の森連絡会議」という名称で、個人と行政の緩やかなパートナーシップを形成して、取り組んでいます。

問題の公共性・社会性にかんがみて、広く地域住民や団体、学校等の参加と創造性の発揮を目指して取り組む必要性があります。そのためには多様な活動の展開が必要で、連絡会議はそのための土俵づくりが第一の任務だと考えます。

八ヶ岳の森には、関係旧4町村の生活環境・文化環境の原点があります。生態系を考慮した森づくり・自然保護に取り組むこととなりますが、その延長には、地域全体でのパートナーシップの形成、地域おこし、場合によっては観光や非営利的な事業の展開などの取り組みも視野に入れる必要があると思います。

この活動は、地球規模の自然や森林の衰退に警笛を鳴らし、その一つの形を示そうとする、ささやかではありますが、意欲的なチャレンジでもあります。

連絡会議は、2003年度のシンポジウムにて「八ヶ岳の森を私たちの共通の財産として後世に伝えていく」と宣言しました。（資料1）

また、「連絡会議」の目標と運営をビジュアル化していくために、「会則」を作成し、活動をしているところです。（資料2）

(資料1)

「八ヶ岳の森」宣言

この一年、私たちは「八ヶ岳の森」で、5回の森林体験プログラムを開催してきました。

森の中では、やわらかな風が気持ちよく散歩し、透き通った空気が静かな鼓動を打っていました。

そして、美しい四季折々の自然のうつろいと、時の流れをそっと教えてくれる森から、たくさんのメッセージを受け取りました。

「八ヶ岳の森」は、植生も変化に富み、生物のすみかとして、最適で多様性のある生息環境であり、原生林をはじめ貴重な野生動植物の分布など、高い価値を持っています。

「八ヶ岳の森」は、私たちにとって、豊かな生態系や地下水などの恵みをもたらしています。この恵みは、里地の農作物を育て、潤いに満ちた文化を育み、私たちの命を守っています。しかし、自然に対する行き過ぎた利用や無秩序な開発など、私たちの生活のあり方が「八ヶ岳の森」の生態系に様々な影響を及ぼしています。

貴重な森の自然は一度壊れると復元することは非常に困難です。

「八ヶ岳の森」は、自然、景観、歴史・文化のどれひとつをとっても、私たちの社会を写し出す鏡であり、「八ヶ岳の森」と人との共生は、私たちの最も重要な課題です。

私たちは、歴史のバトンランナーとして、今を生きる人々だけでなく、次の世代の人々のため、その自然環境の保全に取り組んでいきます。

今こそ、私たちは、1本の木が森へと育つように、森の恵みを活かし、地域住民・民間団体・行政・企業・学校等の各主体が、パートナーシップの精神で互いに連携・協力し合い、保護と賢明な利用のもと、「八ヶ岳の森」を私たち共通の財産として、後世に伝えていくことをここに宣言します。

2003年11月22日

第1回 「八ヶ岳の森」シンポジウム より

(資料2)

「八ヶ岳の森連絡会議」会則

第1条 (名 称)

この会は、「八ヶ岳の森連絡会議」(以下「連絡会議」という)と称する。

なお、ここでいう八ヶ岳の森とは、八ヶ岳の山梨県側地域を指し、山梨県によって指定された「八ヶ岳森林文化の森」の範囲を活動の中心とする。

第2条 (目 的)

連絡会議は、八ヶ岳の森の自然を次の世代に確実に譲り渡すために、その自然と、人と自然との関わりを育むことを目的とする。

連絡会議は、住民・民間団体・行政(山梨県、北杜市)・企業・学校等の各主体が互いに連携・協力し合い、パートナーシップの精神でこの目的に向かって活動を進めていくための母体および連絡調整機関として機能する。

第3条 (組 織)

連絡会議は第2条の目的に賛同する団体および個人を会員として組織する。

第4条 (活 動)

連絡会議は第2条の目的達成のために、次の活動を行う。

1. 自然および人と自然との関わりに関する調査
(自然環境調査、古老への聞き取り調査、文献研究)
2. 保全目標や保全計画策定のための意見集約
(座談会の開催、会報による意見募集など)
3. 環境教育の実践
(自然観察会、自然教室、シンポジウムや講演会等の開催)
4. ボランティアによる保全活動
(下草刈り等萌芽更新援助、間伐、ゴミ拾いなど)
5. ボランティア・インタープリター(自然案内人)の養成と自然解説活動の実施
(養成講座の開催、自然解説活動のコーディネートなど)
6. 情報交換および情報発信
(会報の発行、ホームページの開設、メールマガジンの配信など)
7. その他、目的を達成するために必要な活動

第5条 (役 員)

連絡会議に次の役員を置く。役員任期は1年とするが、再任を妨げない。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 世 話 人 | 20名程度 |
| 2. 会 長 | 1名 |
| 3. 副 会 長 | 若干名 |

第6条 (役員を選出)

会長、副会長は世話人の中から互選し、総会において承認する。

第7条 (役 員 の 職 務)

1. 世話人は、連絡会議の運営にあたる。世話人の中から会計、会報編集、電子情報発信等の担当者を定めることができる。
2. 会長は連絡会議を代表し、会を統括する。

第8条 (顧 問)

連絡会議には顧問を置くことができる。顧問は、世話人の総意で選出する。

第9条 (会計監査)

連絡会議には会計監査を置く。会計監査人は、会長が委嘱する。

第10条 (総会)

1. 総会は会の組織や運営を決める最高議決機関である。会長が招集し、会員の半数以上の出席をもって成立する。議案は出席人数の過半数の賛成をもって可決される。
2. 会の運営上、緊急を要する場合は、世話人会が専決し後日総会で報告する。

第11条 (世話人会)

世話人は世話人会を組織し、会の組織や活動に関して協議する。世話人会は会長が招集する。

第12条 (行政の役割)

連絡会議に係る行政（山梨県、北杜市）は、連絡会議の運営が円滑に進むよう積極的に支援する。

第13条 (事務局)

事務局は会長の住所地に置く。ただし、当面、中北林務環境事務所に置く。

第14条 (運営)

連絡会議の運営経費には、受託金、寄付金、助成金およびその他収入を充てることができる。

第15条 (補足)

この会則に定めるものの他、連絡会議の運営に関して必要な事項は、世話人会または総会を経て、会長が定めるものとする。

(平成15年3月6日施行)

この会則は 平成18年4月1日改正し、施行する。

八ヶ岳おろしが

ビューッビューッと吹き荒れる
やたらと嬉しくなってしまう
寒いのはかなわん と言いながら
心はワクワクしてしまう
この里に生まれたからではあるまいが
キッパリとした姿が
たまらなく好きだ
走り出したくなる衝動に
思わず散歩に飛び出す
深呼吸を一つ
冷たい空気が血流に乗って
体中を駆けめぐる
ウーッと一声
細胞の隅々まで
生命が行きわたる
たまらない冬が来た

3 八ヶ岳の森の再生活動の課題

八ヶ岳の森のエリアを決めるにはいろいろな議論が必要ですが、例えば、赤岳を頂点とし広域農道（レインボーライン）を底辺とする三角形のエリアを対象に考えると、一万町歩に近い広大な森となり、標高も里山の850m前後から山頂の2899mに広がる森と自然を考慮することになります。

そこにはミズナラ林やシラビソ林などの原生的自然だけでなく、アカマツやカラマツなどの針葉樹人工林や里山林などの多様な自然が広がっています。

連絡会議の活動の開始は、八ヶ岳の森の再生と自然保護に関する地域活動の可能性を現実のものにしていると思います。

①森の多様性

森の多様性については様々な課題があります。自然界の多様性は、自然それ自体が自立的に運動しています。そうした自然界の多様性を人間は作り出すことはできません。

ここで課題となっている多様性とは、自然界にある無限の多様性ではなく、森づくりにおける、あるいは森の再生における多様性です。

森づくりにおける森の多様性とは、森の**自然的多様性**と森の**社会的多様性**（人間活動の多様性）という二つに構成されると考えます。

②自然的多様性

自然的多様性は、野生生物にとっての森や自然の役割を考えた森づくりです。

森は、多くの樹種をはぐくみ、高木から草本まで立体的な構造を持ち、多くの動植物が住んでいます。「衣食住」が確保できれば、それを利用する住人たちの顔ぶれはにぎやかになります。植物が太陽エネルギーを緑の葉でとらえ、その葉をチョウやガの幼虫が食べます。これをカラ類などの小鳥たちが食べ、小鳥をオオタカなどの猛禽類がとらえます。あるいは木の実を食べるリスやアカネズミなどの小動物を、キツネやイタチなどの肉食動物がとらえます。このような植物からはじまる「つながり」と並んで、動物の死がい・落ち葉などを分解する微生物や昆虫類から始まる「つながり」もあります。食う食われる関係で結び付いた生物どうしの「つながり」は網の目のように入り組んでおり、**食物網**と呼ばれています。このネットワークを通してエネルギーや物質が循環し、非生物的要素も含めたまとまりのあるシステムを構成し、森の多様な生態系が出来上がっています。

八ヶ岳の森の多様性の条件としては、広大な裾野を覆う豊かな山林や草原があることに加え、枯れることのない溪流や湧水があることだと思います。山麓に点在する多くの湧水、溜池や幾筋もの河川は、山麓の原野や農耕地を潤し、ここに生息する動植物に大きな恵を与えており、山容の大きさ、険しさは大型獣の生息には不可欠の条件であり、豊かな植生は中型、小型 獣類や鳥類の種類数や個体数などの多様性と深く関わっています。八ヶ岳山麓が古くから動物の宝庫として知られてきた所以はここにあるのではないのでしょうか。

③社会的多様性

社会的多様性は、人間にとっての森や自然の役割を考えた森づくりとなります。

森には、木材生産、国土の保全、やすらぎ・心の健康の維持や森林レクリエーションの場の提供、精神文化かん養などの機能があります。

特に、レクリエーションや森林セラピーなどの活動は、それ自体非経済的な活動なのですが、これからは木材生産以上にこれらの活動が営利的な経済活動として森が利用されるのではないのでしょうか。

このような観点から、森の自然的多様性や森の社会的多様性を「保全しながら利用する」というテーマを基に森の再生に取り組むこととなります。

④従来型の木材生産至上主義からの脱皮

知床や白神などの東北各地の運動によって、守られ保存された原生的森林は、未来において大きな意義が生じると思います。

戦後、木材生産を主目的として造られた針葉樹人工林が、八ヶ岳南麓の植生帯を特徴づけていますが、これまで経済効率を一方的に追求してきたために、森林生態系として見ると、偏った森林が多いのではないのでしょうか。生態系への配慮を忘れた単純な人工林では、気象害や病虫害にも弱いとされています。これでは森林の多様な機能を発揮することはできません。

アカマツやカラマツなどの針葉樹人工林においても、生態系としての森林の健全性を確保することが求められています。

森づくりを考える場合にも、ミズナラ林・ダケカンバ林・シラカンバ林などの天然林（自然林）の構造や動態をモデルにすることが必要です。その意味で、生態学的管理を基本とした森づくりを、今後も継続する必要があると思います。

⑤不適格造林地の再生

表土厚の薄い急傾斜地にかろうじて成立していた天然林を伐採し、針葉樹の人工林を造成するなどが試みられましたが、このような所は、もともと木材生産の場にするべきではなかったのではないのでしょうか。このような不適格造林地は、今後も自然林に再生する取り組みが必要であると思います。

⑥水辺林の保護再生

水辺林とは、河川、湖沼、湿地などの周辺に広がる森林のことを言います。溪畔林、河畔林、湖（沼）畔林、湿地林の4つに分類されています。水辺林は、生物多様性が高く、その構造は複雑で、極めて微妙なバランスの上に成り立っています。

水辺林は、山地生態系にとっても、流域生態系、農村生態系にとっても、核心的な位置を占めています。八ヶ岳にも山地溪畔林や湿地林、沼畔林が存在しています。これらを森のネットワークとして全体の中にどのように位置づけて保全あるいは再生させていくかという観点も大切になると思います。

以上の課題は、一朝一夕に解決できる活動ではありません。森が50～100年のサイクルで動いていくように、私たちもその時間の長さで活動をしていかねばなりません。

そのためにも、世代を超えた人づくり、時代を見据えた仕組み作りが必要なのだと思います。

4 2003年度活動報告

- ①日 時 : 5月24日(土曜日)
タイトル : 自然観察と植林体験のつどい
参加人数 : 23名
場 所 : 三味線滝の森(長坂町小荒間)

長坂町小荒間地内にて、林道を散策しながら、植物や昆虫、動物の痕跡など自然観察を行いました。その後、治山工事によってできた林道端の空き地に移動し、準備したミズナラのポット苗を、参加者全員で、大きく育つことを祈りながら、1本1本大切に植えました。



— 林道端にて —
植物や昆虫など、発見がいっぱいだったよ



— 林道端での植林体験 —
子供達も手伝ってもらって、みんなで植えました。



— 植林後の現地にて記念撮影 —
植えた苗木が大きく育ちますように

- ②日 時 : 5月24日(土曜日)
タイトル : 森とツツジの観察会
参加人数 : 27名
場 所 : 大泉村天女山 天女山駐車場周辺

天女山駐車場周辺にて、歩道を散策しながら、咲いている花々等を観察しました。

また、駐車場のの上にある展望台まで、歩道端の自然観察をしながら登り、展望を楽しむとともに、登山道にある道標の歴史などの話を聞いたりして、有意義に過ごしました。



— 歩道端にて —

植物等の特徴を示しながらの解説を聞きました。



— 歩道端にて —

植物だけでなく、葉を食べる虫等も観察しました。



— 天女山展望台にて —

登山道の道標の歴史など、色々な話を聞きました。

③日 時 : 7月12日(土曜日)

タイトル : 森の花と押し花教室

参加人数 : 32名

場 所 : 三味線滝の森(長坂町小荒間)

長坂町小荒間地内にて、林道を散策しながら、道端に咲いている花々を観察しました。その後は、同じ場所で、希少な花等をさけて、種類を選びながら花等を採取し、それ

ぞれが思い思いの構図を考えながら台紙にならべて、アイロンを使いながら押し花を作成しました。



林道端にて道端の花等を観察
希少な花は見るだけにしてね



花を採取した現地にて押し花をつくる。
さてさて どんな構図にしようかな？



花を採取した現地にて押し花をつくる。
アイロンを使いながら うまくできたかな？

④日 時 : 8月3日(日曜日)

タイトル : 森の下草刈りをしよう

参加人数 : 25名

場 所 : 高根町清里 交流の森

清里の「交流の森」にて、植えられたモミの木等の周囲の下草刈りを行いました。

その後、同じ場所で、植えられた木などの状況を観察したり、刈り払ったササ等を集めたりして

現地の植物を調べたりして、自然観察を行いました。



交流の森にてみんなで下草を刈りました。
鎌はうまく使えたかな？



下草を刈った跡にて植えた木等を観察、ど
んなになってるかな？



下草を刈った跡にて刈り払った物を調べる
何種類の草があるかな？

⑤日 時 : 10月25日(土曜日)

タイトル : ドングリと遊ぼう

参加人数 : 27名

場 所 : 小淵沢町観音平

観音平周辺の林内にて自然観察を行い、そこで、どんぐりを集め、ポット苗を作りました。その後、さらに集めたどんぐり等を使って工作を行いました。なお、作ったどんぐりの苗木は参加者に育ててもらい、それをまた森林へ植えて

もらうことにしています。



森の中でどんぐりを探す。
なかなか見つからないよ～



ポット苗をつくる
どのどんぐりがいいかな。
よ～く選んでね！



どんぐり等での工作
どんぐりを使ってうまくできるかな？

5 2004年度活動報告

①日時：4月25日(土曜日)、6月19日

タイトル：オキナグサ植生調査

参加人数：連絡会議スタッフ10名

場所：天女山登山道、天の河原

5月の連休を挟んで、その前と後でのオキナグサの植生を調べ、盗掘等の人的破壊があるかどうかを確認した。結果として、シカの食痕は確認されたが、人的な被害と思われるものは数株であった。



オキナグサの植生調査の様子



オキナグサ

②日時：5月22日(土曜日)

タイトル：森に木を植えよう

参加人数：21名

場所：三味線滝の森(長坂町小荒間)

三味線滝の南側の森の、荒れた空間にミズナラを植えました。今回で2回目です。



植林は中学生が大活躍です。

③日時：7月24、25日(土、日曜日)

タイトル：チャレンジ・キャンプ

参加人数：31名

場所：八ヶ岳 少年自然の家

森の中でキャンプをすると同時に、朝・昼・晩・夜と変化する森の観察会を通して、森からのメッセージを受け取りました。特にナイトハイクは、子ども達に好評でした。



キャンプ生活の基本について説明がありました。



森の探検に行きました。



慣れない手つきで一生懸命調理します。



みんなで作った夕食、とっても美味しかった！

④日 時 : 10月24日(日曜日)

タイトル : ドングリと遊ぼう

参加人数 : 31名

場 所 : 観音平ロッジ

今回で2回目となるが、ドングリのある森の観察会とドングリをポットに植え、育てて、また森に返す取り組みである。昼食は美味しいキノコ汁を食べました



みんなでドングリを探します。



ポットにドングリを植えます。小さなお子さんも一生懸命やりました。

6 2005年度活動報告

①日 時 : 5月21日(土曜日)

タイトル : 森に木を植えよう

参加人数 : 31名

場 所 : 三味線滝の森(長坂町小荒間)

森にポツカリ空いた裸の土地に木を植え、傷ついた森の再生の手助けを行いました。初年度に植えたミズナラの木は、シカによる多少の食害が見られますが、立派に成長していました。



手分けして木の苗を植えました。



子供たちも一生懸命やりました。

②日 時 : 6月18日(土曜日)

タイトル : 森の観察めぐりパート1

参加人数 : 32名

場 所 : 美し森 — 羽衣池 — 小滝 — 八ヶ岳牧場 — 天女山

ちょっと天気心配だったのですが、終点の天女山まで無事、到着することが出来ました。参加者数22名(4歳～67歳)、スタッフ10名、森を利用させてもらうにはこのくらいの人数が限度だと思います。参加される方は、植物や鳥、昆虫などの名前を知りたいという希望が多いのですが、当然それにも私たちは答えていかねばならないと思います。しかし、それだけが目的ならば、巷の観察会と同じです。たくさんの植物や動物たちと出会う機会を求めるならば、その生育場所や生息場所が未来にわたって保全されることが前提です。つまり、いろんな形で森を利用していこうとするならば、それは賢明で持続的な利用方法でなくてはならないと思います。保全しながら賢明な利用をする。そんなルールや仕組みづくりが、今八ヶ岳の森には必要なのではないのでしょうか。パート4まで続く「森の観察めぐり」、今日の感動が何らかの保全活動につながる

ことを願っています。緑の中に浮かぶ淡紅色のレンゲツツジ、花を落としたズミの木の下でかすかに残る花の臭い、鼓膜に焼き付くハルゼミの鳴き声、ダケカンバやミズナラに手を当て「おいつつですか」と問う、テンのフィールドサイン、シカの食害？ 川俣川上流小滝に生息するハコネサンショウウオ、カッコウやホトトギス、キビタキ、コマドリなどの夏鳥たち、ウグイスやシジュウカラ、コルリ、ビンズイなどの住人たち、みんなみんなこの森で生きる権利があるんですね。



美し森の駐車場を出発



牧場の草原を抜け、森の中を樹木の説明を聞きながら進みます。



天女山で記念撮影 —19—

③日 時 : 7月16日(土曜日)
タイトル : 森の観察めぐりパート2
参加人数 : 34名

場 所 : 天女山 — 天の川原 — 観音様 — ツバクラ岩 — 谷戸道下山

九州地方は、梅雨が明けたとのこと。しかし、山梨は、まだ梅雨の真っ最中です。麓から見ればハヶ岳は雲の中、その中でも「森の観察めぐりパート2」は実施されました。参加者24名、スタッフ10名、霧の中のハヶ岳の森を歩くのも、また幻想的なのですが、やはり雷雨は気になりました。天女山駐車場をスタートすると、歩道沿いにニッコウキスゲとイブキジャコウソウが目立目立ちます。ジャコウソウの臭いを嗅ぎながら天の河原に着くと、オオルリとメボソムシクイの鳴き声が迎えてくれました。遊歩道の入り口で、コアカミゴケとシモツケ、ウツボ草を虫めがねで観察、その美しさというか可愛らしさに感動です。兜岩の沢までは、下りです。ツツジのテングス病の拡大を心配したり、高樹齢のシラカバ、カラマツに感動。遊歩道内のクリンソウを踏まないように注意して歩きます。沢を渡ると登坂となりますが、斜面には不思議がいっぱいでした。その中でも蛾の死体からの冬虫夏草は発見でした。

中の尾根から昼食場所の観音様広場までは、急な登坂ですが、ダケカンバやミズナラの樹形に感動しながらのめぐりでした。午後は西井道を降りてきたのですが、アブの大群にまとわりつかれ、ホタルブクロやイブキジャコウソウ、ヤマオダマキをじっくり観察する事が出来ませんでした。西井道から谷戸、ヤマオダマキをじっくり観察する事が出来ませんでした。

西井道から谷戸道(笹鞍尾根)までは小さな沢と尾根を越えて歩きます。真っ青なミヤコザザの林床斜面からタケカンバやミズナラの大木が立ち上がり、その斜面を霧が幻想的に這い上がります。その映像にBGMはオオルリの歌となっていました。

谷戸道を下山してくると、ヒヨドリバナのステージでアサギマダラの優雅な舞いを見ることが出来ました。予定より1時間程早い下山となりましたが、無事到着です。

ハヶ岳の森、今回もたくさんの感動をありがとう。あなたに返すべき事が何であるか、何となく見えてきました。



天女山駐車場で今日の予定について説明がありました



案内板で今日のコースを確認



天女山駐車場で記念撮影



緩やかな起伏の道を歩きます。 地上付近から大きく枝分かれしたミズナラ

④日 時 : 9月17日(土曜日)

タイトル : 森の観察めぐりパート3

参加人数 : 28名

場所 : 谷戸道 — ツバクラ岩 — ツバメ岩 — 三味線滝

今日の参加者は、キャンセルがあったので18名となりました。スタッフは10名で案内しました。予定していた集合場所の「仙人小屋」駐車場が工事のため利用出来なかったため、小荒間の「三味線の森」に集合し、そこからスタート地点に搬送してもらいました。谷戸道の尾根を登り、ツバクラ岩、ツバメ岩、そして三味線滝をめぐるて来ました。

ツバクラ岩には何回も行ってはいたのに、コウモリが生息していたとは気がつきませんでした。大きな収穫です。キノコは沢山目に付いたのですが、あまり話題にはしませんでした。珍しいのはキヌガサタケ、カラカサタケだったでしょうか。今日はアサギマダラにあちこちで出会いました。ツバクラ岩のアザミ、三味線滝の右側斜面に咲くオタカラコウには沢山のアサギマダラが群舞していました。水温は8.5℃、とても冷たく気持ち良かったですね。

次回は三味線滝から観音平までの最後の森めぐりとなります。



出発前に谷戸道登山口で記念撮影



コウモリのいたツバクラ岩



オタカラコウにとまるアサギマダラ

⑤日 時 : 10月22日(土曜日)

タイトル : ドングリと遊ぼう

参加人数 : 18名

場 所 : 観音平ロッジ

森に入り、宝探しをしました。集めたもので記念品を作りました。また、ドングリでポット苗を作りました。



いろいろな宝が見つかりました。



みんなで記念品を作ります。



集まったどんぐりで苗作りに挑戦です。

⑥日 時 : 11月19日(土曜日)

タイトル : 森の観察めぐりパート4

参加人数 : 23名

コース : 鐘釣松駐車場－三味線滝－観音平(昼食)－八ヶ岳神社－大平林道
－駐車場

6月、7月、9月と続けてきた「森の観察めぐり」も11月の本日、完歩しました。

美しい森～観音平までを4区間に分けて歩き通そうと試みた企画でしたが、天候にも恵まれ全区間歩き通すことができました。本日は、急な不参加もありましたが、16名の参加者の他にスタッフ7名の合計23名でした。観音平では、完歩を祝して「おしるこ」で乾杯しました。参加者のほとんどが、全区間を歩いたことになりました。みなさん、それぞれ森から大切なメッセージを受け取っていただけた様で、スタッフとしては下見を行うなど、それぞれの事情の中で大変でしたが、実施して良かったと思っています。



三味線滝は大きなツララが下がっていました。



森の樹木についての説明を聞きながら観音平へ向かいます。



観音平で暖かいお汁粉が振舞われました。



観音平付近で記念撮影



カエデの落ち葉を集めて種類について学びます。

発表があるなど、子どもたちの参加はやはりよかったと思います。あらためて、子どもたちの身近な自然となっている「八ヶ岳の森」を守っていくことの大切さを感じました。今回のブースの展示は9団体となっていました。一つ一つ拝見させていただき、大変参考になったとともに、それぞれの活動が相乗効果でうねりとなり、八ヶ岳の森の保全につながっていくことを願っています。



各ブースに見入る参加者たち



挨拶する連絡会議の伏見会長



各団体の発表を聞く会場の参加者



子供たちの元気な発表から始まりました。





参加者とパネラーとのフリートーキング
会場の参加者からの多くの質問・意見が出されました。

- ⑦日 時 : 2月25日(土曜日)
タイトル : 雪上観察会
参加人数 : 40名
場所 : 八ヶ岳自然ふれあいセンター

清里の森に暮らす動物たちの雪上のフィールドサイン(動物の営みのさまざまな痕跡)の観察を目的で開催したところ40名もの参加者となり、4つの班に分かれての冬の森のにぎやかな観察会となりました。

例年2月の清里(標高1300m以上)といえば春とは名ばかりのまだまだ凍てつく世界で、落葉の針葉樹カラマツやほとんどの広葉樹がともにすっかり葉を落とした明るく見通しのきく白い森が広がっている時期です。しかし・・・真っ白なはずの森のフィールドはすっかり地面をあらわにし、しかも大地は凍らずにぬかっている状態です。日本中が寒かったはずのこの冬でしたが、実は今、春が例年よりとても早くやってくるのです。重たい湿った残雪は、動物の足跡を明瞭に残すには条件の悪い状態でした。くつきりとした足跡の観察はやや難しかったのですが、4種類の動物と2種類の野鳥の足跡を確認することができました。どちらからやって来てどっちに向かったのか、どんなつもりで移動していたものか、などいろいろと想像を膨らませながら観察を続けて歩きました。

雪が少なくて地面がむき出しのため、動物の糞はとて沢山観察ができました。コロコロと散らばったニホンジカの糞、やや大きめでまとまったニホンカモシカらしい糞、それから木の実や種が消化されずに含まれた野鳥のものらしい糞。そしてアカマツの松ぼっくりをホンドリスが食事した残りカス・通称エビフライ。リスのレストラン痕には形もさまざまなエビフライが沢山残されていました。

雪景色ではなかったけれど観察会は楽しくいろいろな発見がありました。これからもこの冬の様子を念頭に置きつつ2006年の観察を続けていきたいと思っています。



参加者は4つのグループに分かれて出発です。



シカの糞が見つかりました。比較的新しい糞です。



シカが木の皮を食べた痕・・・木の幹周りに一部皮が残っていますからこの木が枯れることはありません。



雪の上のキジの足跡です。



リスの食事跡……松ぼっくりの笠が散乱しています。



森を抜け、自然ふれあいセンター前へ戻って解散しました。

7 2006年度活動報告

- ①日 時 : 4月22日(土曜日)
タイトル : オキナグサ植生調査 (第1回)
参加人数 : 22名
場 所 : 天女山・天の河原

絶滅危惧種にも指定されているオキナグサの植生調査を今年も実施しました。

オキナグサの減少が人為的な原因によるのか、自然環境の変化によるものなのか、を継続的な調査によって明らかになっていくものと思います。

調査は八ヶ岳の森連絡会議のスタッフ、サポーターの他一般参加した方々総勢22名

で実施しました。風も無く、穏やかな調査日和で、八ヶ岳横断道の登山口からは1時間弱で調査地点の天の河原に到着、ロープで2m四方の区画を130区画線引きして一区画毎に2人一組でオキナグサの株数を調べました。

1ヶ月後再度同一場所での調査を実施する予定です。



八ヶ岳横断道から天女山への入り口が閉じられていたので天女山駐車場まで歩いて登りました。



安藤副会長からオキナグサの植生調査をはじめた経緯や意義について説明がありました。



背後には甲斐駒ヶ岳から北岳に至る残雪の南アルプスが姿を見せていました。



植生調査の方法について伏見会長から説明がありました。



天女山から天の河原までさらに登ります。



天の川原・・・くっきりと見える富士山に思わず見とれる参加者たち。



雪を頂く富士



調査地点にロープを張り、調査しやすいように 130 の区画に分けます。



左の写真のように花が咲きかけているのもありましたが、大半は右の写真のように 小さな葉が顔を出しているだけですから見逃しやすいのです。



横に並んで這いつくばるようになって、株数を数えていきます。一個も無い区画が続くと精神的に疲れます。



昼食の後、残っていた区画を調査して帰途に就きました。

②日 時 : 6月10日(土曜日)
タイトル : オキナグサ植生調査(第2回)
参加人数 : 11名
場 所 : 天女山・天の河原

先月に引き続き天女山天の河原付近の同一エリアでオキナグサの植生調査を実施しました。今回の参加者は前回の半分 11名でしたが、前回の調査で慣れていたためか、比較的スムーズに調査は進みました。

前回に比べ個体数はかなり多く確認されましたが、花期を過ぎているにもかかわらず翁状態のものは少なく、1~2年後花を付ける若い固体が大半でした。



天女山駐車場から天の河原を経て調査エリアへ向かいます。



天の河原からの遠望



登山道脇に咲くヤマツツジやミツバツツジ



伏見会長から本日のオキナグサの調査方法について説明がありました。



調査エリアで見られたオキナグサ



カウントしたオキナグサは、ほとんどのような葉のみの状態です。



花をつけていたのは、ほんの少しだけ



翁状態になっているものや綿毛になっているのもありました。



花の部分がちぎられた損傷状態のものが幾つかあり、シカ(?)などに食べられたようです。



調査エリアを2平方メートルの区画に区切ってオキナグサの生息個体数を数えます。



茎の長さが1cm 位の小さなものがかなりあり、目を皿のようにして確認していきます。



調査を終えての帰り際、クリンソウの生育場所に立ち寄りました。

- ③日 時 : 6月17日(土曜日)
タイトル : 森の再生を手伝おう
参加人数 : 27名
場 所 : 長坂町小荒間(三味線滝南側の森)

堰堤工事のためにすっぽり開いた森の空間に3年間ミズナラやハンノキ、ヤシャブシの植林をしてきました。泉中学校では、この3年間連続して生徒達を植林に参加させています。

植えた幼木たちは、森を再生しようと自力で頑張ってはいますが、シカの食害や外来植物にその生長を阻害されています。本年度からは、植えた幼木達の成長をしっかり

見ていこうと一本一本に番号プレートを付け、樹高などを記録することにしました。

しかし、約100本の幼木の周りには、タケニグサなどの成長を阻害する高茎帰化植物が生育していたことから、これらの刈り払いを行い、再生のための手伝いをしました。



下草刈りや番号プレートの取り付けに泉中の生徒たちは大活躍！



- ④日 時 : 7月29日(土曜日)
タイトル : ちびっこ探検 in 八ヶ岳
参加人数 : 25名
場所 : 長坂町小荒間「三味線滝周辺の森」

梅雨明け宣言が例年より遅れている中、曇り空が少し気になる天気でしたが、子供たちを2班に分け、大人班とは別に行動しました。午前中は、各班ごとに木に吊るされた問題を協力して回答しながら三味線滝に向かいました。葉っぱをじっくり見たり、匂いを嗅いだり、木の実のお母さんを探したり、幹に抱きついて太さを測ったりと子供たちにははじめての不思議いっぱいの体験だったようです。

午後は全員で、三味線滝下流でカゲロウ類やカワゲラ類、トビケラ類などの水生昆虫観察会をしました。裸足で入ったものの小さい子には冷たかったようです。今回の体験が、少しでも子供たちの原風景となってくれることを願っています。



スタート前の記念撮影



子供班のスタート



木に掛けてある問題を読んでいます。



A、B 2種類の木の違いを比べています。



大人班の様子



身体で幹周りを測っているところ



水生昆虫観察状況

- ⑤日 時 : 8月19日(土曜日)
タイトル : 森林セラピー座談会
参加人数 : 11名
場 所 : 大泉総合会館

森林セラピーとは、全国的にも取り組みが始まったばかりで、活動や行為の対象などについて、現時点で確立されたものではありません。

山梨県が平成18年3月に策定した「森林セラピー推進指針」では、「森林や森林を取り巻く環境などを総合的に活用した森林浴などのレクリエーション活動やリハビリテーション、カウンセリングをはじめとした医療活動など健康の回復・維持・増進を図るための取り組み」としています。

山梨県は、県土の78%を森林で占めていることから、利用可能性はあるものの、全国の例を見ると観光中心、経済至上に偏ったものもあり、必ずしも森林保全とセラピーが共生している状況にはありません。

そんな思いもあり、今回は座談会形式で、「森林セラピー」についての情報交換的な話し合いをしました。連絡会議メンバー(8人)以外に、山梨県森林セラピー研究会委員の増田さん(キープ協会)や全国森林セラピー研究会山梨支部の加々美さん、八ヶ岳南麓景観を考える会の桑田さんにも出席いただきました。

出席者に自己紹介を兼ねてセラピーへの現状認識を話して頂いた後、増田さんに県の研究会での議論の状況や指針の内容の説明をして頂きました。

連絡会議は、八ヶ岳の森の動植物を観察する中で、森の大切さを知り、保全のための

人づくりや社会のしくみづくりをしているわけですが、森の効果を科学的に後押ししてくれるのがこの「セラピー」ということです。失敗例と成功例を議論する中で、八ヶ岳の森の保全と地域振興への期待も予想することができました。



座談会の様子

- ⑥日 時 : 10月21日(土曜日)
タイトル : どんぐりと遊ぼう
参加人数 : 10名
場 所 : 北杜市小淵沢町「 観音平 」

気温10度の森の中と青空の下で開催しました。例年通り、ミズナラの森の観察をしながらどんぐりを拾いました。しかし、今年是不作で、ササをかき分け探しましたが、殻斗(帽子)ばかり、ネズミたちに先を越されていました。

観察会の後、森から拾った素材で記念品作り。

昨年までは、ドングリのポットづくりをしていましたが、今年は現地に床をつくり、ドングリを25個ほど埋めました。 観音平に行く楽しみが増えました。

看板が立ててありますのでご覧になってください。



ダンコウバイを五感を使って観察。
実の味は？



ダンコウバイを見上げていると、まるで海
の中を覗いているような錯覚です。



ドングリを探しているのですが、なかなか見
つかりません。



森の素材で記念品づくり



各自の作品、この芸術性理解できます？

—41—



ドングリを埋めた床の前で記念撮影。
来年在らしみで

- ⑥日 時 : 2月3日(土曜日)
 タイトル : 第4回 八ヶ岳の森 シンポジウム (森の保全と賢明な利用)
 参加人数 : 67名
 場 所 : 大泉総合会館

プレゼンター	八ヶ岳の森連絡会議 山梨県中北林務環境事務所県有林課 北杜市産業観光部林政課 北杜市観光協会 (財)キープ協会 北杜市バイオディーゼル燃料を考える会	
参加団体	八ヶ岳の森連絡会議 八ヶ岳自然観察の会 大泉水と緑を守る会 (財)キープ協会 小淵沢の自然を観る会 北杜市バイオディーゼル燃料を考える会	長坂こどもエコクラブ 八ヶ岳自然クラブ すこやかキッズクラブ高根 こぶちざわこどもエコクラブ 八ヶ岳南麓景観を考える会 (順不同)

「第4回八ヶ岳の森シンポジウム」が大泉総合会館2F大ホールにて開催されました。これまで3回、それぞれ違った視点から、このシンポジウムは開催され、八ヶ岳の森の豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、地域で活動する様々な団体や個人の皆さんと意見交換を行ってきました。

4回目となる今回のテーマは「森の保全と賢明な利用」。

第一部では、プレゼンターとなっていた各団体から、このテーマに沿って、その考え方・活動の報告が行われました。報告を行ったのは、上の表に掲載した6団体。

普段なかなかお話を聞くことの出来ない県の担当の方からは、八ヶ岳南麓県有林の歴史や管理計画等について、また、北杜市の担当の方からは、昨年から行われている、民有林の新しい整備補助制度「北杜市里山整備事業」や「北杜市杜づくり・木づかい事業」等について、そして観光協会からは実際に観光に訪れる方々に対する対応、ご案内の中味について貴重なお話を伺うことが出来ました。

続いて(財)キープ協会からは、森林の活用において新しい可能性を持っている「森林セラピー」の取り組みについて、また北杜市バイオディーゼル燃料を考える会からは、地球温暖化の原因と考えられている化石燃料の使用を少しでも減少させるための生物燃料・

BDFの普及に関する取り組みが報告されました。

第二部では、プレゼンターの方を含め、会場全体でのフリートーキングを行いました。「森林の保全」という言葉の持つ意味から始まって、八ヶ岳南麓のオーバーユースの問題や観光と森林保全に関わるルール作りの是非にまで及ぶ活発な意見が参加者から出され、このテーマに対する関心の高さが窺えました。

中でもオーバーユースの問題については、八ヶ岳南麓の森に沢山の人が入り込みすぎて自然に対してインパクトを与え始めているという意見や、逆にアウトレットなど箱物観光地には人が溢れかえっているものの、そこから一步入った気持ちの良い森には誰も入ろうとしないのは勿体ない、といった意見もありました。たしかに南麓遊歩道などは折角整備されたのに休日にここを歩いても全く人に会わないということもある反面、観音平や天女山駐車場には車が入りきらない状況が休日毎に発生しています。無秩序な人の流入によって、何処の自然が実際にダメージを受けているのか、現場をしっかりと確認していく必要があり、今現在目立った混乱が無くても目立ち始めてしまってからでは遅い、今のうちから地元でルール作りを考えていく必要があるのでは、といった意見もありました。

参加人数は、目標の100人には達しなかったものの、この少々堅いイメージのテーマに
応えて67名の皆さんに集まっていたいただき、各人から自分自身の言葉で八ヶ岳の保全に
関する発言を得られたのは一つの成果だと考えますし、会場内で初めて会った皆さんの
なかで、新しい人の繋がりが出来たことも大きな成果でした。



挨拶する八ヶ岳の森連絡会議の伏見会長



会場に集まった参加者



プレゼンテーションに先立ってプレゼンターの自己紹介がありました。



八ヶ岳の森連絡会議副会長の安藤さんの提案で会場の参加者同士での自己紹介を含めた話し合いの場が数分間持たれ、会場の雰囲気も和やかなものになりました。



続いて安藤さんの司会でフリートーキングが行われました。



展示ブースでは各団体の活動内容に高い関心が示されました。

四季の変化に
心を寄せて
喜び悲しみ楽しむ
心と体が
自然と溶け合うこと
このことが
本来の人としての生活と
感性を見つけ
心の奥底が暖かく
なるのかも

8 2007年度活動報告

①日時：6月9、14、20日(土曜日)

タイトル：オキナグサ植生調査

参加人数：延べ18名

場所：天女山・天の河原

今年のオキナグサの植生調査は4月28日と6月9日の両日を予定していたが、両日とも雨となってしまった。4月は中止、6月は用紙への記入は出来なかったが、雨の中、植生状態を目視で観察した。しかし、毎年きちんとデータを残すことが大切という観点から、平日に調査できる方々の協力を得て、調査を行うことにした。

梅雨の合間を選び、4日間(6月12・14・15・20日)延べ18人の協力者の参加を得て調査した。花やオキナ状態のものはほとんどなかったが、参加の方々には丹念に調査していただいた。これまでのデータを分析し、今後に生かしていきたい。



6月9日雨の中 伏見会長より調査の説明があった。



6月9日花もわずかに残っていました。



6月14日オキナグサが風に舞っていました。



6月20日・8名の参加を得て残っていた未調査の区画を調査

- ②日 時 : 6月30日(土曜日)
タイトル : 森の再生を手伝おう
参加人数 : 20名
場所 : 長坂町小荒間(三味線滝南側の森)

昨年より始めた森の下刈りと樹木の生長記録調査、4年前に植林したミズナラやハンノキ、ヤシャブシは元気に成長しています。幼木の中には、シカに頂芽を食べられ昨年より樹高が低くなってしまった木もありますが、その代わりに孫生(ひこばえ)を出した

り、幹を太くしたりして頑張っています。森の中では、いろんなつながりの中で切磋琢磨して成長しているのですね。

去年は、タケニグサがかなり繁茂していましたが、前回の下刈りの成果でしょうか、あまり目立たない状況になりました。その代わりに、ヒヨドリバナやヤモギなどが目に付くようになり、今年はこちらにおそらくアサギマダラが群舞するでしょう。

森の再生と植物の遷移を感とることができた調査と作業でした。



4年前に植えたミズナラの苗は大きく育ってきました。



作業風景



予定の作業が終わって記念撮影です。

9 2008年度活動報告

- ①日時：4月26日(土曜日)
タイトル：オキナグサ植生調査(第1回)
参加人数：12名
場所：天女山周辺

絶滅危惧種に指定されているオキナグサの植生調査を今年も実施しました。調査エリアは濃いガスに包まれていましたが、幸い雨は降らなかったため植生調査には支障ありませんでした。例年に比べて今年はオキナグサの生育がかなり遅く、やっと芽が出たばかりのような小さなものばかりでした。



天女山駐車場に集合、伏見会長から今日の調査についての説明がありました。



調査エリアに向かいます。ガスが濃く10mも離れると見えなくなります。



調査エリアを2m 平方の升目に区切るための線引きをします。



升目毎にオキナグサが何株あるかを調べます。1~2cm 程の小さな株が多く、見つけにくい。



蕾まで育ったものが1個だけありました。



調査に参加したメンバーです。

- ②日 時 : 5月24日(土曜日)
タイトル : オキナグサ植生調査(第2回)
参加人数 : 16名
場 所 : 天女山周辺

先月の調査に引き続いて今年2回目のオキナグサ植生調査をした。前日の天気予報では雨といったので心配したが、夜が明けると午前中は持ちそうな空模様だった。調査の終了間際から雨が降り始めたが、強い雨にはならなかった。

今回調査エリアの起点・終点を示す杭を新しいものに交換、2m ごとの区分け用の棒も準備し、作業はやりやすくなった。

第1回の調査結と比べると今回は個体数はかなり多く、開花したのものもいくつか見られた。しかし大半は長さ2~3cmの若い固体だった。



調査エリアに向かいます。



途中で根こそぎ倒れたカラマツがあった。カラマツの根は浅いのです。



現地到着



調査エリアの線引きをします。



全員でオキナグサを探し、記録します。



今回は花が咲いているものもあったが、大半は小さな葉だけのものです。

③日 時 : 5月24日(土曜日)

タイトル : 森の再生を手伝おう

参加人数 : 18名

場 所 : 北杜市長坂町小荒間(三味線滝南側の森)

植林後、3年目の調査と下刈りを行いました。下刈りと言っても、森の再生への初期援助ですから、タケニグサなどの外来種を取り除く程度で、後は森の自然再生力を見守ることにしています。

調査は、4年前に植えた、ヤマハンノキ、ミズナラ、ヤシャブシ合計122本にエリアごとに番号札を付け、その成長(樹高、幹周など)を記録しています。ほとんどの木が、幹周を測るほど成長していないので、現在は樹高だけとなっています。

特に、頂芽をシカに食べられているため、上に伸びず横に枝を広げている木が目につきます。今回は、昨年より1月遅く実施したので、写真を見るとまるでススキの原の様です。よく見ると葉っぱの広い木が見えます。

また、ヒヨドリバナが群生してきており、今日はアサギマダラの写真も撮れました。来月は群舞すると思います。森の中では、キビタキやオオルリの囀りが聞こえていました。



シカの食害を防ぐため、ススキは残しましたが、ミズナラも見えます。



アサギマダラとヒヨドリバナ



泉中学の生徒も含め18名の参加でした。

④日 時 : 8月23日(土曜日)

タイトル : 第5回 八ヶ岳の森 シンポジウム

(森の命に向き合うために「何かを忘れていない?」)

参加人数 : 40名

場 所 : 高根農業環境改善センター

●コメンテーター

北杜市 産業観光部 林政課長 浅川一彦 氏

自然とオオムラサキに親しむ会代表 跡部治賢 氏

柳澤の自然を守る会 代表 重田友五郎 氏

●ブース参加団体

(財)キープ協会 八ヶ岳自然クラブ

長坂子どもエコクラブ 北杜市 BDF を考える会

小淵沢の自然を観る会 Team TRUE TREES

八ヶ岳自然観察の会

「八ヶ岳の森シンポジウム」が高根農業環境改善センターで開催されました。

5回目となる今回のテーマは、近年問題となっている野生動物による農作物や森林さらに高山植物への被害を念頭に置きながら、彼らの命も含めた森の命と向き合うために、忘れていた「何かを」話し合う事と致しました。

第一ステージでは、第1回シンポジウムで宣言した「八ヶ岳の森宣言」を保坂世話人から朗読紹介されました。続いて、行政および各団体の3氏からプレゼンテーションがありました。

北杜市の浅川一彦林政課長からは、被害額が毎年約3000万円近くにもなっている状況などが説明されました。

「柳澤の自然を守る会」代表の重田友五郎氏からは、武川町地区でサルの追い払いなどの活動を行っている「やえんぼう倶楽部」の活動報告と里サルと山サルの違いを調査結果から報告されました。

「自然とオオムラサキに親しむ会」代表の跡部治賢氏からは、同会の紹介と 国蝶オオムラサキの保護と里山の整備について、生態学的な視点から説明されました。

第二ステージでは、高木世話人の進行により会場からのアンケートを基にフリートークを行いました。直接被害を受けている農家や林業の方からの発言がなかったことは残念でしたが、被害という現象面にとらわれず、そもそも野生動物とは何なのか、一人一人がしっかり向き合い、出ることから実行することの大切さを感じました。



会場風景



八ヶ岳の森宣言の朗読



浅川一彦氏のプレゼンテーション



跡部治賢氏のプレゼンテーション



重田友五郎氏のプレゼンテーション



自由討論風景



シンポジウム終了後の交流会



ブース展示状況

10 2009年度活動報告

- ①日時：4月29日(土曜日)
タイトル：オキナグサ植生調査(第1回)
参加人数：14名
場所：天女山周辺

昨年は霧の中での調査でしたが、今年は快晴に恵まれ、周囲の山々を眺めながらの調査ができました。数日前に麓で降った雨は、八ヶ岳の森では雪となり、標高2000m付近までは残雪となっていました。

例年より、株の数が少ないようですが、次回5月の調査結果を見て報告したいと思います。



天女山駐車場に集まったオキナグサの調査メンバー



調査エリアを2メートル四方の区画に区切り、その中にある株数を数えます。



このような蕾の状態のものは数株でした。



オキナグサはこの時期まだ小さく、大半は上の写真のような高



- ②日 時 : 5月23日(土曜日)
- タイトル : オキナグサ植生調査 (第2回)
- 参加人数 : 14名
- 場 所 : 天女山周辺

天気と参加人数をちょっと心配していましたが、今回も快晴で気温は14度、参加者も前回と同様の14名で調査することができました。

4/29 の調査の時は、株数が少ない感じがしたのですが、集計してみると625株でした。そして、今回はさらに338株増えて963株を数えることができました。

年によって、開花の時期が一週間程度前後するので、開花数だけで結論を簡単には出せないのですが、4月時の開花数3株、蕾9株、蕾無し606株に対して5月時の開花数2株、蕾38株、蕾なし905株、翁草1、損傷15株、跡形無し2の状況でした。毎年蕾無しの数の割には、翌年度の蕾数が期待に反して少ないのには、何か原因があると思うので、世話人会で話し合っていきたいと思っています。

5月の損傷株については、蕾を摘み取ったような跡が目立ちましたが、これも人間なのか動物なのか追跡していきたいと思っています。



メンバーは入れ替わりましたが人数は前回と同じ 14 名でした。



調査地点までしばらくは登りが続きます



一線に並んでいっせいに調査スタート



天然カラマツの枝は地表近くから出ているため、カラマツの周囲は調査に骨が折れます



花と翁状態のオキナグサ・・・調査地近傍で撮影



日差しが強く、木陰でしばしの休憩

③日 時 : 6月27日(土曜日)

タイトル : 森の再生を手伝おう

参加人数 : 23名

場 所 : 北杜市長坂町小荒間(三味線滝南側の森)

2004年5月と2005年5月の2ヶ年に、ミズナラ、ハンノキ、ヤシャブシ合計122本を植林しました。そして、2006年からその生長の初期援助として、簡単な下刈りと一本の樹高を記録してきました

調査エリアを5ブロックに分けてきましたが、4年目の今年は、ブロックごとの成長の違いが見えてきました。幹周も測定できるようになったブロック、赤松の実生と競争しているブロック、草原から森に移る段階で見られるススキ群落と競争しているブロック、植林した木の半分程が不明となったブロックなど森の成長の多様性を感じる事が出来ました。



下刈りと調査に協力されたメンバー



実生の赤松が目立つブロック



頂芽が食べられ二股になったミズナラ



タケニグサ、初期には目立ったが今年はこの2本だけ



背後の森と同じになるのは何年後だろう・・・

目立った花々



ミヤコグサ



ヒヨドリバナ
アサギマダラが
今年も来ていた



アヤメ



④日 時 : 7月25日(土曜日)

タイトル : 森の観察めぐり

参加人数 : 7名

コース : 天女山→ 天の河原→ 中尾根→ 馬頭観音→ 西井出道尾根→
谷戸道尾根→ ツバクラ岩→ 谷戸道尾根下山→ 大泉浄水場

2005年度には、美し森から観音平までの遊歩道を4パートに分けて「森めぐり」を実施しました。第1パート(美し森～天女山)と第4パート(三味線滝～観音平)は、観光ルートとして昔からあった遊歩道ですが、第2と第3は、平成10年から14年に「八ヶ岳森林文化の森」で整備された区間です。

今回、第2パートの間を歩いた目的は、その後の遊歩道の状況をたくさんの目で観ることにより、これからの遊歩道のあり方を考えることにあります。

西井出道と谷戸道の尾根の間の沢では、強い雨に遭いましたが、全体としては、幻想的な霧の中の森と、時折差し込む木漏れ日の中での「森めぐり」となりました。ゆっくりと歩道沿いに目を落としながら歩いたので、ササ原の中にひっそりと咲いたたくさんの植物が出迎えてくれました。ベニバナイチヤクソウ、アオスズラン、シャクジョウソウ、ヤマオダマキ、ヤマホタルブクロ、ソバナなど、ただ歩いただけでは見過ごしてしまいそうな花たちです。イブキジャコウソウは、どの尾根でもピンクに咲き誇り、疲れを癒す匂いをくれました。

また、私たちの2倍も3倍以上もここに生きている、ミズナラやダケカンバ、シラカンバ、カラマツなどの不思議に折れ曲がった枝を観て、思わず笑いながら、その木の生い立ちを想像してしまいました。年々、シカの食害で尾根の木々の枯れ木が目立つようになってもいます。そして、この森の豊かさを次の世代にも観られるように、遊歩道の賢明な利用の仕方、管理の仕方を、早急に話し合い、ルールを作る必要性を感じました。



天気が良くなかったためか参加者は少なめでした。(天女山駐車場にて)



西井出道尾根と合流する中尾根



シカの食害による枯れ木

私たちを迎えてくれた花々



尾根に咲き誇る
イブキジャコウソウ



シカに花を食われた
ヒヨドリバナ



尾根で見つけた
ベニバナイチヤクソウ



尾根で見つけた
オニノヤガラ



馬頭観音で昼食を取り、記念撮影をしました。

⑤日 時 : 11月26日(土曜日)

タイトル : 「八ヶ岳の森」の利用と保全に関する意見交換会

参加人数 : 7名

場 所 : 北杜市大泉総合支所 2階会議室

私たちは、「森林文化の森」で整備された遊歩道を観察する中で、予期していたとおり、踏圧による歩道の浸食や植物への影響、ゴミの問題が発生していることを知ることとなりました。

一方で、八ヶ岳南麓地域は「観光圏」の認定を目指し、地域資源を活用した観光振興に取り組んでいます。

地域資源には自然資源も含まれますが、日本をはじめ、世界の各地で自然が大きく損なわれ、地球規模の問題へと広がってきています。原因は人間活動が行き過ぎたことにあり、この状態を改善するために、自然のバランスと循環を尊重し、自然と共生する社会を実現することが、強く求められています。

このような中、八ヶ岳の森のフィールドを活動エリアとしている団体に呼びかけ、意見交換会を開催しました。

観光に関わっている方、フィールドガイドをしている方、保全活動をしている方など、多様な意見の交換をすることができました。

今回は、意見をまとめることが目的ではありませんし、短い時間の中での意見交換でしたので、皆さん消化不良だったと思いますが、どのような方がどのような考え方で活動しているのかを互いに知ることが出来たと思います。

1本の木を伐るにもいろんな考え方があります。しかし、何故そう言う考え方なのかは話し合ってみないと分かりません。

今後も、八ヶ岳の森の賢明な利用のために、このような場を設けたいと思います。

意見交換会の様子





生態系の崩壊や生物多様性の危機をもたらしている原因

人間の様々な行為による種の減少・絶滅、生息・生育環境の縮小・消失。

人間の大規模な開発などで物理的に生息地を奪われたり、化学物質により生息地の環境が汚染されたり、あるいは道路などにより生息地が分断され、大幅に生息できる場所が減少されたりすることは、生態系崩壊を招く大きな原因となっている。

人間の生活・生産様式の変化などに伴い、自然に対する人為的働きかけが縮小撤退することによる生息環境の変化、種の減少。

里地里山などでは、人間の管理によって、生物多様性を維持する環境が提供されていた。その管理の放棄などは、生息環境のバランスを崩すことにつながった。

外来種による生態系のかく乱。本来その場に生息していない種の人為的投入は地域ごとの生物相の均一化を進め、在来種の絶滅にもつながる脅威となっている。

11 2010年度活動報告

- ①日 時 : 5月22日(土曜日)
タイトル : オキナグサ植生調査
参加人数 : 11名
場 所 : 天女山周辺

昨年度までは、130のコドラート(2×2)の中の株数を形態別に数える調査をしてきました。調査は、盗掘があるという話を切っ掛けに、毎年5月の連休を挟んで前後1回実施してきました。

結果として、盗掘の確たる証拠を得ることは出来ませんでした。シカの食害が種子散布量を減らしているらしいこと。また、赤松の実生やイネ科(外来種含む)などの高茎植物の侵入が、発芽しても開花まで到達しない原因らしいこと。このことは植物の遷移の法則からすれば当たり前ののですが。

そこで、本年度からは調査の内容を変え、尾根のザレ場三箇所でのオキナグサの分布状況を調べることにしました。この尾根は、オキナグサの群生地として知る人ぞ知る場所となっていました。

現状、今まで咲いていなかった所に咲き始めたり、その逆に咲いていたところで咲かなくなったりと分布が移動しているようです。この調査をする中で、移動の要因や今後の保全の方向などが見えてくるものと考えています。

当日は、尾根を登っていると汗ばむほどの天気でしたが、春先の低温が原因でしょうか、天の河原での開花は確認できたものの、その上のエリアでは数株の開花しか確認できませんでした。

6月に再度、実施する予定です。



調査方法についての説明



調査地点まで登ります。



オキナグサの株は昨年よりかなり少なく、なかなか見つかりません。





オキナグサの蕾

開花

翁状態

②日 時 : 6月26日(土曜日)

タイトル : 森の再生を手伝おう

参加人数 : 13名

場 所 : 北杜市長坂町小荒間(三味線滝南側の森)

2003年度から植林とその後の援助のために毎年実施してきたこの活動も一応今回で終了です。幼木を植林して根付くまでの初期援助が目的でしたので、今後は、自力で再生していく状況を見守ることにしたいと思います。

状況によっては、下刈りが必要になるかもしれませんが、森が遷移をくり返しなが、そこに適した極相の森になっていくためには、ブッシュ状態の時期も 必要なのかもしれません。

裸地化した森は50年から100年の時間をかけて再生すると言われています。この活動を通して、私たちはたくさんのメッセージを森から受け取りました。その一つが、人間の頭の中で考えている時間と森の時間は違うということでした。

これからも終わりのない、森との付き合いが続きます。



沢の左岸下流側、シカに頂芽を食われてもススキより生長した木が見えます。



沢の右岸下流側、まだススキと同じくらいですが、株は成長しています。



積極的に伐ってきたタケニグサ



ミズナラとその横に実生で生えてきたヤナギ



雨の中、参加して頂いた皆さん、後から3人来てくれました



アヤメ



ヤマオダマキ



ミヤコグサ



ヤマハタザオ



ニシキウツギ



ヨツバヒヨドリ

来月には、開花と同時に
アサギマダラが乱舞します

③日 時 : 7月31日(土曜日)

タイトル : 森の観察めぐり

参加人数 : 15名

コース : 並木上林道ゲート発→遊歩道入林道終点→遊歩道11分岐点→
ツバメ岩→遊歩道10分岐点→遊歩道9分岐点→遊歩道8分岐点→
三味線滝→並木上林道ゲート着

今回は、コースに林道を入れた周遊コースで歩いてみました。ただ歩くだけであれば4時間ほどのコースですが、「森の観察めぐり」ですから7時間ほどを使ってみました。

じっくり観察しながら歩くと、いろんな草花や不思議に気が付きます。そして森の歴史や不思議にも。

そんな訳で、普通ならゲートから遊歩道入口までなら、1時間もかからないのですが、2時間を要してしまいました。このままだと日が暮れるまでに戻れないと思い、少しペースを上げたほどです。

現在、並木上林道の一部区間では林道沿いの間伐が行われています。ここは土砂流出防備保安林となっており、間伐による森の活性化が必要となつています。三味線滝では滝の上流の湧き出しまで未踏の斜面を登って見ましたが、あまりお勧めは出来ません。

これからも、森の賢明な利用と付き合い方を考えるため、「森めぐり」を続けたいと思います。



林道沿いに間伐された木が積み重ねられています。



数年前に間伐されたカラマツ林、陽光が地上まで届き、森が蘇った



周囲を観察しながらゆっくり歩きます。



三味線滝…もうすぐゴールです。



昼食をとったつばめ岩で記念撮影

観察路で見かけた花々



ヤマアジサイ



シモツケ



ヤマオダマキ



イケマ



ノハナショウブ



ウスユキソウ



ヤマホトギス



フシグロセンノウ

12 2011年度活動報告

- ①日 時 : 5月28日(土曜日)
タイトル : オキナグサ植生調査
参加人数 : 8名
場 所 : 天女山周辺

昨年から調査の内容を変え、尾根のザレ場3エリアでのオキナグサの分布状況を調べています。今日は、台風と前線による雨を心配していましたが、気温15℃の霧の中で調査することができました。

昨年は22日でしたので、一週間ほど遅れての調査でしたが、特に分布位置に変化はありませんでした。ただし、シカに花芽を食べられた株が昨年より多く見受けられました。この調査をする中で、移動の要因や保全の必要性の有無

などを考えていきたいと思います。



エリア1の様子



エリア①のおきな草

エリア①でシカに食べられたおきな草



エリア2の様子



エリア②のおきな草



エリア3の様子



エリア③でシカに食べられたおきな草

②日 時 : 5月28日(土曜日)

タイトル : 森の再生を手伝おう

参加人数 : 9名

場 所 : 天の河原

昨年までは、長坂町小荒間の森で植林からその後の生育状況と下刈りなどの初期援助をしてきました。今年は、「天の河原」の浸食の速度を少しでも遅くするため周辺の実生(カラマツ、アカマツ、モミ)を移植する活動を始めました

森への植林では、森に生育する種と同種の幼木を持ち込んで植えていました。しかし、これも生物多様性から見ると遺伝子攪乱になると言われています。最近では、ドングリを持ち帰りポットで育てて、森にまた返すという活動も盛んです。これも結構大変な割には、ポットで育てた幼木を森に植林するので根付き率が低いようです。



浸食が進んでいるザレ場の様子



7年ほど前に移植した松



昨年移植した松

- ③日 時 : 7月30日(土曜日)
タイトル : 第1回森の観察めぐり
参加人数 : 8名
コース : 並木上林道～三味線滝～観音平～並木上林道

天気が心配だったのですが、気温23℃、湿度75%の中、並木上林道ゲート前を9時前に出発。早速、小雨に降られながらも、林縁に咲くオカトラノオ、ヒヨドリバナ、そしてアサギマダラを観ながら歩きました。

森の再生活動を行ったエリアでは、植林したヤシャブシ、ハンノキ、ミズナラの違いや成長ぶりを概観。シラカバ林とレンゲツツジの群生地では、ツツジが咲いている様子を想像しながら、来年の季節を期待。途中から高川に降りて、川に沿って三味線滝へ。滝のところでは息が白くなるほどでした。

古杉川の手前まで小雨と一緒にでしたが、カラマツ林と笹の緑のコントラスト、その中にオレンジに咲くフシグロセンノウ、ヒヨドリバナの群生地に乱舞する沢山のアサギマダラを観て歩きました。 昼食を観音平でとる頃には、薄日も射ってきて、富士山をはじめ北岳、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳などを眺めることができました。

昼食後、延命水近くの展望場所で暫し眺望。 スタート地点に向かって帰路に付くと、林縁でトモエソウやタツナミソウ、ヌスビトハギなどを観察。砂防堰堤の状況や森の管理と生態について、話し合いながら歩きました。

3時45分、出発地の並木上林道ゲート前に到着。

今年は、秋に2回目の「森の観察めぐり」(美し森～天女山)を開催する予定です



並木上林道ゲート前で



遊歩道の様子(三味線滝→観音平)



三味線滝前で



- ④日 時 : 10月29日(土曜日)
タイトル : 第2回森の観察めぐり
参加人数 : 23名
コース : 美し森駐車場～羽衣池～小滝～大ヤマツツジ～美し森駐車場

紅葉はピークを過ぎていましたが、絶好の秋晴れで空には雲一つなく、富士山をはじめ360度全ての山々を望むことが出来ました。

気温10℃、美し森駐車場を9時に出発。美し森への急な木道を登り始めると、富士山、南アルプス、瑞垣山などがますます雄大に見えてきました。大町桂月が詠んだ「麓から頂きまでも富士の嶺を背負いて登る八が嶽かな」のとおり的情景です。草花に会うことは出来ませんでした。ヤマツツジとレンゲツツジの葉っぱの違いを観たり、ここから羽衣池までは、展望は無くなりますが、色づいたカラ松や乾燥したズミの実を食したり、特に植林されたカラマツ林とミズナラの林の違いを観ながら羽衣池で大休止。

昔は水面も見えたこの池は 現在牧草が入り込んだりして、湿地の状況になってしまいました。ここから川俣川東沢の小滝までは、シカの食害状況を観ながら歩きました。モミの木の林では少し遊歩道はずれてシカになったつもりで歩きました。

ダケカンバとシラカンバ、ヤエガワカンバの幹の違いを感じたりしながら山頂で小休止。

小滝で昼食。着いたときには私たちだけでしたが、そのうち沢山のパーティーがここで昼食を取り始め、青空レストランのようでした。水温は6度、冷たいのを我慢して石の帰りは、通称「地獄谷林道」を歩きながら、シラカンバを観たり、黒曜石を拾ったり、途中から林道はずれて、ヤマネの巣箱を見学。「大ヤマツツジ」は石碑は立派ですが、現在はテングス病になってから 徐々に弱くなり、見る影もありません。残念とは思いつつ来年も花に逢えることを願って、林道に戻り2時30分に駐車場に到着。

普通に歩けば3時間ほどのコースを5時間程かけて「森めぐり」をしました。



出発前に美し森駐車場で



美し森への木道を登る、振り向くと富士山や南アルプスの大パノラマ



空とダケカンバ、海の中を覗いている錯覚



三ツ頭と権現岳



羽衣池、昔はここから赤岳の全容が見えた



カラ松林の中の紅い実、メギはミヤマシロチョウの食草

林道から川俣川をのぞき込むと山モミジの紅葉



シラカンバとツルウメモドキ

「天然記念物大ヤマツツジ」の石柱と柵内のツツジ



大ヤマツツジから林道へ出る最後の
登り坂

到着後モミジの前で

⑤日 時：12月1日(木曜日)

タイトル：緑の回廊八ヶ岳「モニタリング調査結果」学習会

参加人数：16名

場所：北杜市大泉総合会館

中部森林管理局指導普及課生態系管理指導官の元島清人さんを講師に、「緑の回廊八ヶ岳とモニタリング調査」と「八ヶ岳の高山帯におけるシカ被害」についてお話していただきました。



緑の回廊八ヶ岳とモニタリング調査」について

- 全国には、24ヶ所588千ヘクタールの緑の回廊が設定されている
- 中部森林管理局管内には、白山山系緑の回廊、緑の回廊雨飾・戸隠、越後山地緑の回廊、緑の回廊八ヶ岳の4ヶ所、77千ヘクタールが設定されている。
- 緑の回廊八ヶ岳は、平成14年度に7623ヘクタール(内818は山梨県有林)が設定され、平成15から20年度まで11調査ゾーン26プロットでモニタリング調査が実施された。
- 調査は、緑の回廊における森林の状態とそこに生息する野生動植物の関係を把握し、緑の回廊の有効性の検証を行うことを目的に、森林を林分構造の発達度合いにより区分し、それぞれの林分に生息する動物相の定性的な把握が行われた。
- フィールドサインやセンサーカメラにより、ニホンジカ、カモシカ、ツキノワグマなどのほ乳類21種、オオタカ、サンショウクイなどの鳥類38種が確認された。

- 確認数では、ニホンジカが圧倒的に多く、カモシカも南アルプスと比較するとかなり多く確認された。
- H22年度からは、過去のプロットの中からの6ヶ所と新たに山梨県有林内に1プロット追加した7プロットで実施。
- H22年度の山梨県有林内のプロットでは、ニホンジカ、カモシカ、ツキノワグマなどほ乳類15種が確認された。
- 調査の結果からニホンジカの増加は、カモシカのテリトリーを犯している様である。
- 今回の調査では、林分と野生動物との関係性を検証することは出来なかったが、引き続き大型ほ乳類を中心に野生動物の生息調査を継続する。森林調査は当面、変化が少ないと考えられるから、大きな変動がない場合は実施しない。
- なお、大型猛禽類も森林の多様性を示す指標種であることから調査を検討する。

「八ヶ岳の高山帯におけるシカ被害」について

- 高山帯植物にシカの食害が見られることから、シカ対策の検討を行うため、平成21年7月～10月に麦草峠から編笠岳までの稜線と登山道を調査した。
- シカの近づけない岩稜地帯を除き、全域で生息が確認され、高山植物に被害が見られた。
- 高山帯(2500m以上)は、ハイマツなどの低木や風衝礫地ではウルップソウ、コマクサなど、風衝草原ではツクモグサ、ミヤマシオガマなどの八ヶ岳特有植物が生息している。
- シラビソ林の剥皮の被害の他、、黒百合平奥湿地・稲子岳窪地・ジョウゴ沢においては植生変化が起きている。
- 硫黄岳東斜面では、ダケカンバの剥皮害によりディアラインが作られている。
- 高山植物の食害だけでなく、シカの群の上下移動が土壌崩壊を誘発し、生育を阻害している。
- 「台座ノ頭」では、南北八ヶ岳保護管理運営協議会によりシカ防護柵を設置している。
- シカの移動時間帯について、日没から夜明けにかけて多く、日中は登山道から離れたダケカンバ林にいて、登山道周辺には夜間出没している。
- 目視された場所は、ダケカンバ林、高茎草本群落、高山低木群落、被害ランクが高い場所周辺で、登山道から離れている。
- 8月を中心に稜線に上がってきて、9～10月頃稜線から降りている。
- シカは3～4年前頃から高山帯に進出しており、黒百合平など開けた場所や湿原周辺で被害が多い。ダケカンバ林での下層植生に被害が多い。高茎草原、広葉草原・高山草原に被害が多い。稜線部の「風衝草原」「高山荒原」に被害が多い。横岳山頂直下や阿弥陀岳でも被害が確認された。
- 高山植生保護のために、緊急的に希少種などの生育地に防護柵の設置や個体数管理の推進が必要である

「ヤツガタケ」のつく植物

ヤツガタケトウヒ、ヤツガタケ
キンポウゲ、ヤツガタケキスミレ、
ヤツガタケムグラ、ヤツタカネア
ザミ、ヤツガタケタンポポ、ヤツ
ガタケナズナ、ヤツガタケシノブ
などがあり、主に高山植物です。
ヤツタカネアザミは、千五百か
ら千八百メートルで普通に見られ
ます。

13 2012年度活動報告

①日 時：5月26日(土曜日)

タイトル：オキナグサ植生調査

参加人数：17名

場 所：天女山周辺

3年ぶりに株数調査を実施しました。2009年の調査では963株を確認できていましたが、今回は429株しか確認できませんでした。

シカの食べ痕もあるものの、遷移の進行で赤松や唐松の実生が成長していること、また、牧場からのイネ科の植物が進入していることが大きな要因ではないかと考えられます。

引き続き、今年で3回目となる尾根の3エリアでの分布調査を行いました。前記の調査結果のように、生育が消滅に向かっているエリアもあれば、新たに分布を始めたエリアもあることが分かってきています。

これらの調査はまだ科学的に証明された訳ではありませんが、八ヶ岳の南麓に生育するオキナグサと今後どのように関わっていったらよいのかを話し合う材料にはなると考えています。



集合場所の天女山駐車場にて、調査位置や過去の調査結果を説明



株数調査エリアにて、調査方法を説明



組になつて、130の枠を1枠ごとに、その中の株数を数えているところ。



調査にご協力頂いた皆さん。



ほとんどがこのような株ばかり、栄養不足で開花まで成長していません。



翁状態まで成長しないとこのエリアは消滅してしまいます。また、分布を広げることも困難になります。

②日 時 : 5月26日(土曜日)

タイトル : 森の再生を手伝おう

参加人数: 12名

場 所: 天の河原、観音平

午前中にオキナグサ調査を終え、午後からは昨年に引き続き、「天の河原」での実生(唐松、赤松)の移植を行いました。

昨年度の移植の活着率は30%程度でしょうか。少しでも森の再生のための初期援助になればと願っています。

今年は、さらに「観音平」でのミズナラの実生移植を行いました。母樹の周りに芽生えた実生をロッジの撤去跡に移植し、森の再生のための初期援助を行うものです。



昨年度、「天の河原」で移植した唐松と赤松、半分は枯れてしまいました。



「観音平」で母樹の周りで、移植する実生を見定めているところ。



ロッジの跡地に移植をしているところ



移植された実生であることが分かるように、赤いリボンテープをつけてあります。
訪れる機会がありましたら、ごらんになってください。

③日 時 : 6月16日(土曜日)

タイトル : 第1回森の観察めぐり(雨天中止)

参加人数 : 2名

コース : 美し森駐車場～羽衣池～小滝～美し森駐車場

小雨決行の予定でしたが、時折強い雨と風が吹いたのと、天気予報も強い雨との予報でしたので、安全重視で中止となりました。

しかし、Sさんの19日の観察会の下見も兼ねていたので、しっかり雨装備をして、二人だけで歩きました。

駐車場に着いたときは、小雨でしたので、中止しなくてもよかったかなと思いました。

しばらくすると強い雨。中止が正解でした。

強い雨で、霧が薄くシラカバとヤマツツジ、レンゲツツジのコントラストが美しく、まさしく地名の「美し森」のとおりですね。

駐車場近くのズミの花は散っていましたが、高根荘近くのズミの花はまだ満開。ドウダンツツジの

仲間もこれからが満開です。羽衣池では、モウセンゴケを観ることができました。思い切って開催すればよかったかなーというのが、感想と反省です。



④日 時 : 7月28日(土曜日)

タイトル : 第2回森の観察めぐり

参加人数 : 14名

コース : 並木上林道ゲート前～三味線滝～観音平～並木上林道ゲート前

厳しい猛暑が続いていますが、天気は晴れ、気温27℃、湿度73%の中、9時にゲート前を出発。

さっそく、ヨツバヒドリにヒョウモンチョウの仲間が集まっています。三味線滝に向かって林道を登っていくと、ホタルブクロ、ミヤコグサ、ヤマオダマキ、ウスユキソウ、それらに集まるチョウやガの仲間、そしてネキトンボウやアカネの仲間、名前を特定できないたくさんの昆虫たち、この調子だと観音平には今日中に着きそうもありません。

居たことだけ確認して、三味線滝に向かいました。滝の下に着くと、気持ちのいいこと、水温8℃で、もうここにずっと居たいほどです。ここに群生するオタカラコウが少なくなっているようです。

ほぼ等高線上の遊歩道に観音平に向かいます。このコースは観光ルートなので笹も刈られ歩きやすい状況になっています。しかし、一緒にウスユキソウやヤマオダマキ、ネジバナなどの野草類が刈られてしまっているのが残念です。カラ類やメボソムシクイ、クロツグミ、ウグイスの鳴き声を聞きながら、それでも花がないかと探していると、ウスユキソウやベニバナイチヤクソウ、ヤブレガサに出会えました。

いつもはたくさんのアサギマダラが群舞しているヨツバヒヨドリバナの群生斜面では、例年より少ないですが、数頭のアサギマダラを観ることができました。

観音平に着くと、いつものことですが、駐車場は満車で延命水の所まで車道に縦列駐車となっていました。ミズナラの木の下で昼食。

昼食後、五月に移植したミズナラの稚樹の様子やドングリから成長を観察しているミズナラの状況を観ました。

ちょっと延命水に寄って、帰りに向かいました。延命水の所は登山口となっているので湧水口が崩壊し、昔の風情はなくなってしまっています。

帰りは、林道を下りましたが、オトギリソウやウツボクサの他には花の咲いた野草に合うことはできませんでした。

厳しい夏が続いていますが、もう生き物たちは来るべき秋に備えているのですね。



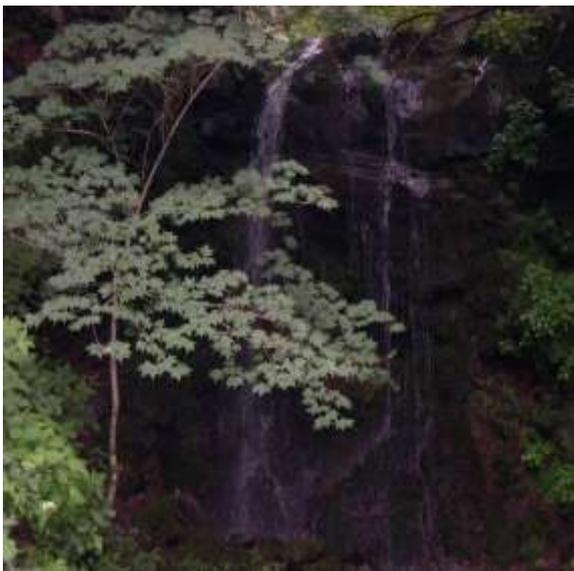
ヨツバヒヨドリに集まるメスグロヒヨウモンチョウなどのチョウ類



出発前のストレッチ



同じカラマツ林でも光の当たり方でこんなに違うのですね。



三味線滝



5月に移植したミズナラの幼樹



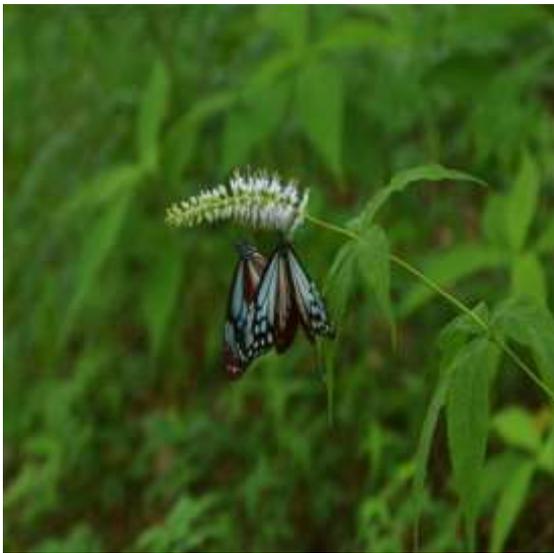
三味線滝に上がる林道の様子



ホタルブクロ



ミヤマアカネ



アサギマダラとクガイソウ

⑤日 時 : 9月30日(土曜日)

タイトル : 「緑の回廊八ヶ岳」現地視察報告

参加人数 : 8名

八ヶ岳には、貴重な自然環境を残す森林が数多くあり、多種多様な動植物が生活しています。そして、この貴重な森林やそこに生活している野生動植物を守っていくことを目的とした種々の保護林が設定されています。この保護林をつなぐことにより、いろいろな野生動植物が自由に行き来できる生活の場を広げるなど、貴重な森林生態系をまもるために作られた空間(通り道)を「緑の回廊(コリドー)」といいます。

今回は、山梨県側の調査エリアP27を観てきました。

大泉・清里スキー場に車を置き、大門川沿いの林道を登りました。



駐車場の近くには、フジアザミが目立ちました。



調査地点までの林道の様子。巨木は少ないですが、原生林の林です。
ハウチワカエデやツタウルシは紅葉が始まっていました。



シカの食害により、枯れた樹林が目立ちました。



赤い実は、イボタヒヨウタンボクとシラカンバ



林道にはこのトネアザミが目立ちました。



この地点の調査はH22年度から始まり、現在はこのようなセンサーカメラを設置して、生息動物の調査がされています。



調査エリアに入ってみると、食害により、シラビソやコマツガが枯れて倒れ、クマイザサが優占種になっています。ササも冬に全面食べられたようです。裸地化の始まりです。



ここはまだ倒れていませんが、シカの食害痕がよくわかります。想像していた以上にシカ食害が進んでいることが分かりました。やはり、ある程度の個体数管理を行わないと、丹沢山地と同様の状況になってしまうのも時間の問題と認識しました。

⑥日 時 : 10月13日(土曜日)

タイトル : 第3回森の観察めぐり

参加人数 : 11名

コース : 美し森駐車場～羽衣池～小滝～牧場展望台～
赤い橋～美し森駐車場

スタート時は、少し風もあり寒かったのですが、天気は最高。富士山をはじめ南アルプス連峰など360度のパノラマとなりました。紅葉は始まったばかりでしたが、すばらしい色のコントラストで、気持ちのいい森めぐりでした。



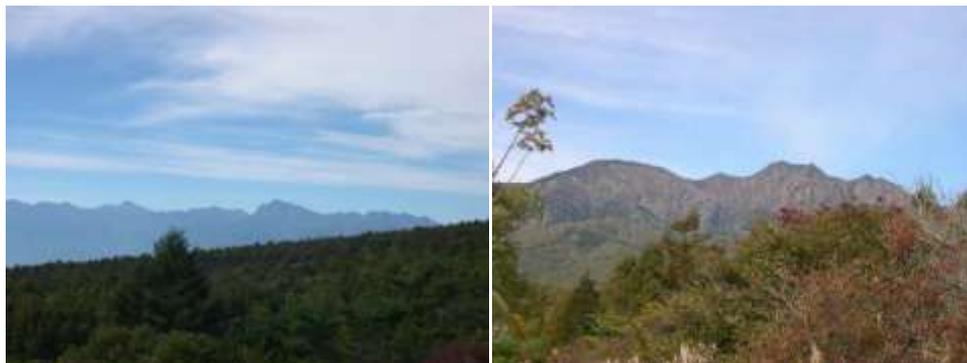
今回の参加者です。



富士山もよく見えました。



トウダイクサの紅葉、三色です。



甲斐駒ヶ岳も権現岳もすばらしい展望です。



美し森山頂に向かう途中。登っているのに海の中に入るような錯覚です。



途中で振り返ると富士山や茅ヶ岳がくっきり。
麓から頂きまでも富士の嶺を背負いて上る八ヶ岳麓
(大町桂月)



赤岳の山頂や展望荘も肉眼で見えました。



左側はミツバツツジ、右側はドウダンツツジ、
こんなに違う秋色を迎えるのですね。



羽衣池にはモウセンゴケという食虫植物が生育していますが、
こんな花も咲いていました



川俣川の上流にある小滝





そこでこんなオブジェを創作してみました。



これはササがイナゴに食べられて枯れてしまった状況です。
すごい数のイナゴがやってきたのでしょう。

14 オキナグサ植生調査

オキナグサの植生調査は、2004年から始めた活動です。そのきっかけは、5月の連休にたくさんの方が八ヶ岳を訪れるが、心ない人による盗掘が見られるという情報でした。その事実を確認するため、連休を挟んで前後の日に調査を実施してきました。

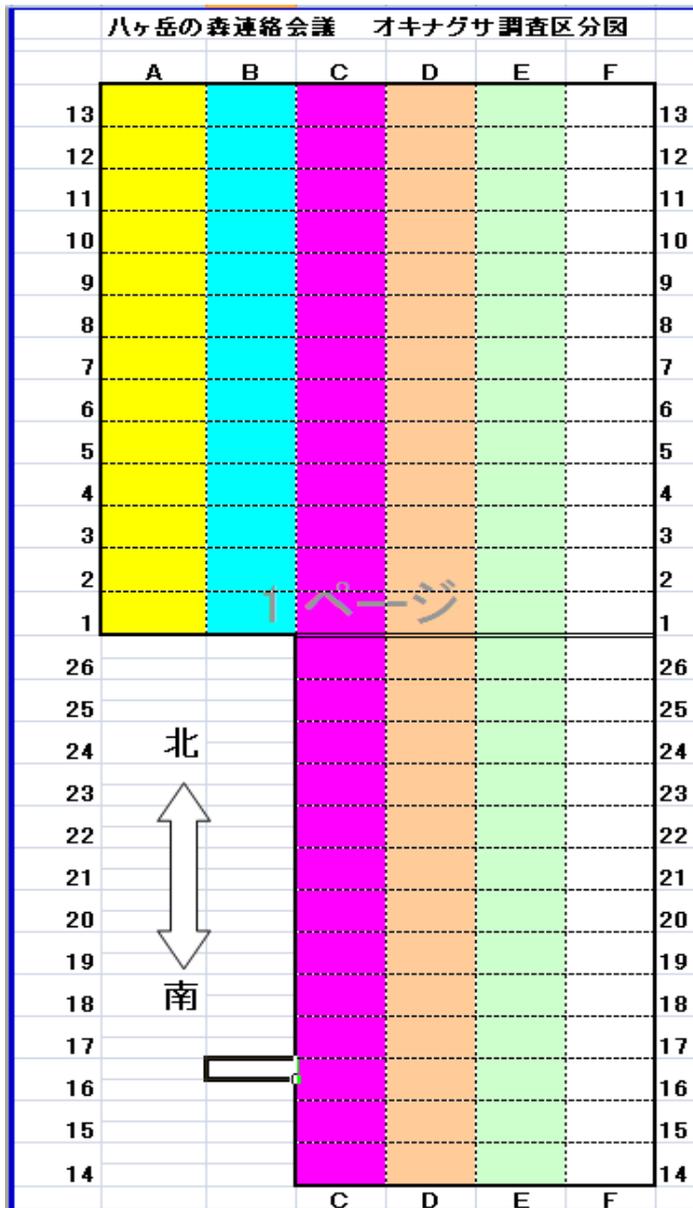
結果として、断定できる証拠は見られませんでした。それより、シカによる食害や周囲の高茎植物、特に外来のイネ科植物の侵入により、種から芽生えても開花まで至らず、数が少なくなっているのではないかと分かりました。

さらに、あるエリアで数が少なくなっている一方で、違うエリアで数が増えているのではないかという新たな疑問も発生しています。

そのため、現在は、特定のエリアの株数調査から天女山尾根の3つのエリアでの、分布の調査を実施しているところです。

調査の状況は、前記の各年度の活動報告で記載しましたが、結果については次のとおりです。

①調査エリア枠(2m×2m、130枠)



②エリア別株数



③株の形態別株数



④分布調査位置

この天女山尾根のように、八ヶ岳の尾根のザレ場には、いくつかオキナグサの群生地が見られます。しかし、踏み固められた登山道は、降雨時には川となり、種だけでなく株ごと流れているようです。

このため、分布のエリアが動き、下流や林縁などの安定したところで新たな生育を始めるのですが、林縁ではアカマツやカラマツの実生により日影となるので、オキナグサは開花まで成長できないということになります。

一方で、森の中のニッチに落ちた種が芽生え、開花しているところもあるなど、あるエリアでは絶滅したが、他のエリアで新たな群生が発生しており、全体としてみると「減少」に向かっているとは言えないようです。しかし、こっちに生育しているから良いということではなく、現在の生育場所を保全することが大切なのだと思います。そのための保全活動が必要とされています。



15 ハケ岳緑の回廊

ハケ岳には、貴重な自然環境を残す森林が数多くあり、多種多様な動植物が生活しています。そして、この貴重な森林やそこに生活している野生動植物を守っていくことを目的とした種々の保護林が設定されています。この保護林をつなぐことにより、いろいろな野生動植物が自由に行き来できる生活の場を広げるなど、貴重な森林生態系をまもるために作られた空間(通り道)を「緑の回廊(コリドー)」といいます。

林野庁の事業として、長野県側では、モニタリングが実施されていました。動植物の生育や生息に県境はありません。山梨県側でのモニタリングを要望していたところ、調査地点一ヶ所の追加が可能となり現在、モニタリング中です。

【緑の回廊イメージ図】



緑の回廊ハケ岳 調査地点P27 位置図



八ヶ岳緑の回廊(コリドー)

森林生態系の構成者である野生生物の多様性の保全には、その移動経路を確保し、生育・生息地の拡大と相互交流を促すことが必要とされています。国有林野事業では、原始的な天然林や貴重な野生生物の生育・生息地等を保全・管理するため、保護林を従来から設定しており、保護林を中心にネットワークを形成する「緑の回廊」を設定し、野生生物の移動経路を確保することで、より広範かつ効果的な森林生態系の保全を図ることとしています。

緑の回廊では、分断された個体群の保全と個体群の遺伝的多様性の確保、生物多様性を保全するはたらきを発揮させるため、緑の回廊としてはたらきを発揮するのにふさわしい森林については、適切にその維持を図り、森林整備の必要がある場合には、植生の状態に応じて、下層植生を発達させたり、裸地化の抑制を図り、緑の回廊全体として、針葉樹や広葉樹に極端に偏らない樹種構成、林齢、樹冠層等の多様化を図るための森林施業を実施することとしています。現在、緑の回廊においては、野生生物の移動実態や森林施業との因果関係等を把握するため、モニタリングを実施中であり、その結果を緑の回廊の設定及び取扱いに適切に反映させることとしています。

設定された場合、保全するのは、山梨県側の責任となります。「連絡会議」として関わっていく必然性がここにあります。

あとがき

日本の森から八ヶ岳の森を考える

世界の森林面積はおよそ35億 ha であり、陸地の27%、海洋を入れた地球表面積の8%を占めています。日本の森林面積はおよそ2500万 ha で、この30年近くほとんど変わっていません。森林面積の国土に対する割合（森林率）は67%であり、これは北欧諸国と並んで世界でもトップレベルです。しかし、国民一人当たりの森林面積を見てみると北欧諸国の10分の1以下、森林国カナダの100分の1となってしまいます。このことから、いかに居住可能なわずかな土地に人口が集約されているかということがわかります。日本人は森林と効率的、共生的に付き合わなければいけない、と言い換えることも出来ます。

山梨県の森林面積は県土の78%であり、これは高知、岐阜、島根に続いて全国4位の高い森林率となります。しかも、山梨県には3000m以上の標高差と変化に富んだ地形があるため、暖帯から寒帯まで幅広い気候帯が広がり、多様な植物種や植物群落を目にすることが出来ます。このような分布は日本列島全体の特徴といえますが、富士山や八ヶ岳など多くの高山を擁する山梨県ではその典型的な例を見ることが出来るのだと思います。

森林面積の50%は天然林、44%が植林された人工林です。また、県有林の占める割合が4割以上、民有林が6割弱で、国有林はわずかなのです。

山梨県には、3つの国立公園と1つの国定公園、2つの県立自然公園がありますが、これらの自然公園を始めとして、県内各地に豊かな森林が非常に多く残されているのです。このことは、自然公園面積の割合が28%で全国5位であることから伺えます。

渇水期にもコンコンと湧き出る水、その源はこの四方につらなる山々の森のなせる技なのです。森が与えてくれるものは水だけではないことを、私たちは今までの活動を通して教えてもらっています。

八ヶ岳の森は、スプロール的に開発が進み生態学的にも危機的な状況は変わっていませんが、一方でこの森が私たち人間や野生動植物にとって命の源であるという事実もかわるものではありません。

しかし、この事実が多くの人にまだまだ知られていないというのが現実なのではないでしょうか。これからも活動を通して八ヶ岳の森のメッセージを受け取り、伝え、自然保護つまりは私たちの命の源を守ることに繋がっていきたいと思います。

最後に、この冊子を作ることが出来たのも、「連絡会議」の活動を支えてくれた人たちがいたからこそです。改めて感謝申し上げます。

八ヶ岳の森連絡会議 世話人一同